

## 戦後を克服するドイツ、呪縛される日本。異なる二つの敗戦国を世界情勢から徹底比較した決定版 『膨張するドイツの衝撃——日本は「ドイツ帝国」と中国で対決する』

戦後ドイツの欺瞞をあばくドイツ文学者・西尾幹二と最新のヨーロッパ情勢を追う川口マーン恵美が  
戦後 70 年を機に激変する世界情勢を論じる緊急対談

(著者)西尾幹二 川口マーン恵美

(価格)1,400 円＋税 (発売日)2015 年 8 月 10 日

(判型・ページ数)四六判 並製 232 ページ(出版元)ビジネス社

株式会社ビジネス社(東京都新宿区:代表取締役社長 唐津隆)は、2015 年 8 月 10 日に『膨張するドイツの衝撃——日本は「ドイツ帝国」と中国で対決する』を発売いたします。

戦後70年を機に軍事費を増大し、EUを操り、反イスラエルを画策し、アメリカにさえ牙をむくドイツは、中国と蜜月関係を結び東方へ拡大する。一方、泥沼化する安保法制論議に捕らわれ台頭する中国という脅威に二の足をふんだままの日本。本書は、かつてない日米同盟の危機にドイツ文学者の西尾幹二とドイツ在住でベストセラー『住んでみたドイツ 8勝2敗で日本の勝ち』の川口マーン恵美の緊急対談をまとめた1冊です。異なる二つの敗戦国を世界情勢から徹底比較した日本とドイツ決定版となります。

### 敗戦を克服したドイツ、戦後に呪縛される日本

まえがき(川口マーン恵美)

第一章 ドイツ人はなぜ「日本嫌い」なのか

第二章 戦後は日米が隣国であって日中は隣国ではない

第三章 地球上に広がる「文明の衝突」

第四章 戦争が異なれば戦後も違う

第五章 難民・移民問題で苦悩するヨーロッパ

第六章 東へ拡大する「ドイツ帝国」の狙い

第七章 原発再稼働か脱原発か

あとがき(西尾幹二)

(はじめにより)

フランス人歴史家、エマニュエル・トッドは、現在のドイツを、第四の「ドイツ帝国」と名付けた。トッドはヒトラーの「第三帝国」を示唆しているのだが、私は、今のドイツには EU の頸木があるので、どちらかという、神聖ローマ帝国の復活だと思っている。新しいドイツ皇帝の座が、かつてのように張り子の虎で終わるか、あるいは実行力を伴ったものになるかは、これからの歴史の流れ次第だ。



## 【著者】

西尾幹二(にしお かんじ)

ドイツ文学者、思想家、評論家。

昭和10年東京生まれ。東京大学文学部独文科卒業。同大学大学院文学修士。文学博士。

著書に『同盟国アメリカに日本の戦争の意義を説く時がきた』『憂国のリアリズム』(ビジネス社)、『決定版 国民の歴史 上下』(文藝春秋)、『天皇と原爆』『人生について』(新潮社)、『GHQ 焚書図書開封 1～10』(徳間書店)など多数。国書刊行会より『西尾幹二全集』(全22巻)が刊行中、第12回配本『自由の悲劇』まで配本完了(2015年7月現在)。

川口マーン恵美(かわぐち まーん えみ)

作家、拓殖大学日本文化研究所客員教授。

大阪府生まれ。ドイツ・シュトゥットガルト在住。日本大学芸術学部音楽学科ピアノ科卒業。シュトゥットガルト国立音楽大学大学院ピアノ科修了。

著書に『なぜ日本人は、一瞬でおつりの計算ができるのか』(PHP研究所)、『住んでみたドイツ 8勝2敗で日本の勝ち』『住んでみたヨーロッパ 9勝1敗で日本の勝ち』(講談社+α新書)、『ドイツで、日本と東アジアはどう報じられているか?』(祥伝社)、『証言・フルトヴェングラーかカラヤンか』(新潮社選書)、『ドレスデン逍遥』『ドイツ流、日本流』(いずれも草思社)など多数。

## 著者への取材、企画ご協力、読者プレゼントご対応も承ります。

《 お問い合わせ先 》

株式会社ビジネス社 広報担当:松矢

〒162-0805 東京都新宿区矢来町114番地 神楽坂高橋ビル5F

E-mail : [matsuyapress@gmail.com](mailto:matsuyapress@gmail.com) 携帯 : 090-7261-1982 TEL 03-5227-1602/FAX 03-5227-1603